



浦和大里小学校だより

8・9月号 令和5年8月29日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



どんな自分になりたいのか

校長 中野 緑

空に浮かぶ雲は、まだ入道雲です。雲が秋の景色を描き始めるのは、もう少し先ようです。本日、元気に子どもたちが登校し、2学期をスタートすることができました。子どもたちの事故防止のため、夏休み中も活動をしてくださった保護者、地域の皆さま、本当にありがとうございました。

毎年、2学期のはじめに、子どもたちに思わずかけてしまう言葉があります。

「なんだか、ずいぶん、大人っぽくなったねえ。」

1か月も会わないと子どもたちの変化がよくわかります。ちょっとした表情が大人っぽくなったり、自分でできることが増えたり、考え方がしっかりして来たり…。2学期は、たっぷり4か月。大きな成長が期待できる時期ともいえます。健康に気を付けて、焦らず取り組んでまいりましょう。

新学期のスタートに当たり、子どもたち一人ひとりに目標を立てさせようと準備をしている学級がありました。私は、子どもたちに「どんな自分になりたいか」をしっかり意識させ、その道のりの途中に「今」がある、という意識づけをしてほしいと、よく職員に話しています。

そのような中、年々増えてきたな、と感じるのが「将来はほどほどに暮らしていきたい」「ご飯が食べられればいい」というような「夢」を書く子どもです。その子と話してみると、要は「将来の夢が見付からない」「今はまだ決められない」ということのようにです。話をしているうちに、自分の高校生時代にタイムスリップし、勉強もうまく進まないし、将来の夢も定められないあの時の強烈な焦りが鮮明によみがえってきました。

今、私が、高校生の私にアドバイスするとしたら、『夢』が見つからないときは、とりあえずやるべきことをやりなさい。」と言おうと思います。「本当に、自分で納得できる『やりたいこと』が見付かったら、自然に力が湧いてくるから、そんなに焦らないで、期待されている役割を果たしなさい。」と。

そして、小学生の皆さんに伝えたいのは、「他人から期待されるということは、自分に向いていることかもしれない」という考え方です。「委員長やってみたら?」「リレーの選手に立候補すれば?」などという周囲からの声掛けは、あなたへの期待であり、きっとできると思いますよ、という励ましでもあります。

学校は、自分の力を試してみる場所です。試行錯誤には失敗もつきものです。どうぞ2学期は、心に浮かんだ小さな「やってみたい」という思いを実行に移して、経験を広げてほしいと思います。それらの経験の中に、「好き」が見つかり、「夢」へと育っていくかもしれません。

行事も多い2学期です。引き続き、温かなお力添えを、どうぞよろしくお願いいたします。